

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年8月11日

【四半期会計期間】 第63期第1四半期(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

【会社名】 ダイヤ通商株式会社

【英訳名】 DAIYA TSUSHO CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大矢 晃久

【本店の所在の場所】 東京都文京区本郷三丁目15番9号 S W Tビル4階

【電話番号】 03(5804)5081(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部課長 新島 裕一

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区本郷三丁目15番9号 S W Tビル4階

【電話番号】 03(5804)5081(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部課長 新島 裕一

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 会計期間 | 第62期 第1四半期累計期間 | 第63期 第1四半期累計期間 | 第62期 |
|----------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日 | 自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日 | 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日 |
| 売上高 (千円) | 1,354,507 | 1,321,673 | 5,560,434 |
| 経常利益 (千円) | 4,646 | 26,033 | 27,636 |
| 四半期(当期)純利益 (千円) | 97,565 | 21,047 | 6,782 |
| 持分法を適用した 場合の投資利益 (千円) | | | |
| 資本金 (千円) | 90,000 | 90,000 | 90,000 |
| 発行済株式総数 (株) | 7,552,000 | 7,552,000 | 7,552,000 |
| 純資産額 (千円) | 1,075,960 | 1,006,445 | 985,398 |
| 総資産額 (千円) | 2,625,367 | 2,693,709 | 2,721,064 |
| 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円) | 12.95 | 2.79 | 0.90 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円) | | | |
| 1株当たり配当額 (円) | | | |
| 自己資本比率 (%) | 41.0 | 37.4 | 36.2 |

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため、記載しておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間について、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

東日本大震災により大きく落ち込んだ国内景気は、回復の兆しが見えてきたものの、その動きは鈍く、福島原発事故から派生した様々な問題や政府の補正予算編成の遅れなどの影響で本格的な回復基調は本年度下期以降にずれ込むものとみられております。

当社の主力事業である石油業界の第1四半期累計期間(平成23年4月1日～平成23年6月30日)は、全体的な製品供給能力には安定感がでてきたものの原油価格は上昇基調を続け、高止まりの状態を呈し、国内の製品需要は震災による影響などからほぼ全ての油種で前年同期を下回る厳しい状況となりました。

東日本大震災の影響については、仙台エリアの1拠点が被災し営業停止の状態ですが、リニューアルプランも固まり再開に向けて具体的な取り組みを開始しました。

このような状況の中、当社の第1四半期の売上高は13億21百万円(前年同四半期比2.4%減)、営業利益は29百万円(前年同四半期比283.4%増)、経常利益は26百万円(前年同四半期比460.3%増)となり、これに特別損益を加減した税引前四半期純利益は23百万円(前年同四半期比76.7%減)となり、これに法人税、住民税及び事業税を加減した四半期純利益は21百万円(前年同四半期比78.4%減)となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

当社石油事業のサービスステーション部門におきましては、前期より引き続き「集客 リピート率アップのサイクルを意識した」営業施策の実施に加え、車検ライセンス制度を新たに立ち上げ、提案型「車検」の品質向上と客単価アップをはかり、車検台数は計画を上回る状況となっております。

また、レンタカー事業では固定客化が進み、東京エリア店舗では増車を行うと共に仙台エリア店舗では試験導入も順調なことから本格導入を決定しました。東日本大震災の影響もあり、全体的な客数は減ったものの販売管理費の削減などで吸収し営業利益は計画を上回りました。

直需・卸部門におきましては、東日本大震災が大きく影響しました。

直需部門では、「新規のお客様」からお問い合わせが急増し、確実にアプローチを行った結果、新規開拓に成功しました。一方、既存需要家への販売数量は減少しましたが、これは節電に伴い各需要家の稼働率が低下したものであります。

また、卸部門では、震災後の景気低迷や自粛ムードの影響を受けたものの、売上・販売数量は昨年実績を上回る状況となっております。

これらの結果、石油事業の売上高は11億33百万円（前年同四半期比 5.5%減）、営業利益は36百万円（前年同四半期比 314.1%増）となりました。

専門店事業であるサイクルショップ「コギー」におきましては、第1四半期において、以前から取り組んでまいりました「集客」「リピート率アップ」「客単価アップ」のサイクルを強く意識して、更なる強化を行いました。また、4月1日に辻堂駅前店、5月10日に西谷駅前店をオープンし、更なる売上向上を狙いました。

これらの結果、専門店事業の売上高につきましては1億43百万円（前年同四半期比 27.9%増）、営業利益は9百万円（前年同四半期比 117.0%増）となりました。

不動産事業におきましては、当四半期も順調に推移し、売上高は45百万円（前年同四半期比 4.7%増）、営業利益は25百万円（前年同四半期比 0.1%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期会計期間末における総資産は、26億93百万円（前事業年度末比 27百万円減）、うち純資産は10億6百万円（前事業年度末比 21百万円増）となりました。

資産のうち流動資産は9億42百万円（前事業年度末比 27百万円減）、固定資産は17億51百万円（前事業年度末比 0.1百万円減）となりました。これらの増減の主な要因は、受取手形及び売掛金が39百万円増加したものの、現金及び預金が91百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては16億87百万円（前事業年度末比 48百万円減）となりました。流動負債は10億44百万円（前事業年度末比 1億41百万円減）、固定負債は6億42百万円（前事業年度末比 92百万円増）となりました。これらの増減の主な要因は、買掛金の1億37百万円の減少、長期借入金の94百万円の増加によるものであります。

純資産につきましては、四半期純利益を計上したことにより、10億6百万円（前事業年度末比 21百万円増）となりました。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 20,000,000 |
| 計 | 20,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年6月30日) | 提出日現在 発行数(株) (平成23年8月11日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|----------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|-------------|
| 普通株式 | 7,552,000 | 7,552,000 | 大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 単元株式数1,000株 |
| 計 | 7,552,000 | 7,552,000 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成23年6月30日 | | 7,552,000 | | 90,000 | | |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|---------------------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 17,000 | | 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式7,485,000 | 7,485 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 50,000 | | 一単元(1,000株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 7,552,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 7,485 | |

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式530株が含まれております。

2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|-----------------------|---------------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) ダイヤ通商株式会社 | 東京都文京区 本郷三丁目15番9号 SWTビル4階 | 17,000 | | 17,000 | 0.23 |
| 計 | | 17,000 | | 17,000 | 0.23 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び当第1四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、監査法人薄衣佐吉事務所により四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成23年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 323,903 | 232,623 |
| 受取手形及び売掛金 | 428,746 | 468,110 |
| 商品 | 179,955 | 184,741 |
| その他 | 47,336 | 64,567 |
| 貸倒引当金 | 10,221 | 7,517 |
| 流動資産合計 | 969,719 | 942,525 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 1,280,547 | 1,280,547 |
| その他 | 206,496 | 206,856 |
| 有形固定資産合計 | 1,487,043 | 1,487,403 |
| 無形固定資産 | 1,004 | 1,004 |
| 投資その他の資産 | | |
| 差入保証金 | 232,933 | 234,737 |
| その他 | 78,130 | 77,012 |
| 貸倒引当金 | 47,767 | 48,974 |
| 投資その他の資産合計 | 263,295 | 262,774 |
| 固定資産合計 | 1,751,344 | 1,751,183 |
| 資産合計 | 2,721,064 | 2,693,709 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 410,347 | 272,851 |
| 短期借入金 | 538,814 | 538,814 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 5,500 | 9,500 |
| 未払法人税等 | 9,200 | 2,410 |
| 店舗閉鎖損失引当金 | 23,247 | 17,860 |
| 災害損失引当金 | 110,370 | 110,370 |
| その他 | 88,271 | 92,663 |
| 流動負債合計 | 1,185,750 | 1,044,469 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 11,500 | 106,000 |
| 長期預り保証金 | 192,111 | 194,361 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 324,841 | 324,841 |
| その他 | 21,461 | 17,590 |
| 固定負債合計 | 549,914 | 642,793 |
| 負債合計 | 1,735,665 | 1,687,263 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成23年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日) |
|--------------|-----------------------|----------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 90,000 | 90,000 |
| 資本剰余金 | 1,003,448 | 1,003,448 |
| 利益剰余金 | 521,479 | 500,432 |
| 自己株式 | 2,828 | 2,828 |
| 株主資本合計 | 569,141 | 590,188 |
| 評価・換算差額等 | | |
| 土地再評価差額金 | 416,257 | 416,257 |
| 評価・換算差額等合計 | 416,257 | 416,257 |
| 純資産合計 | 985,398 | 1,006,445 |
| 負債純資産合計 | 2,721,064 | 2,693,709 |

(2)【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) |
|--------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 売上高 | 1,354,507 | 1,321,673 |
| 売上原価 | 1,116,858 | 1,060,986 |
| 売上総利益 | 237,649 | 260,687 |
| 販売費及び一般管理費 | 230,025 | 231,452 |
| 営業利益 | 7,624 | 29,234 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 574 | 337 |
| 受取配当金 | 475 | 170 |
| 消費税等差額 | - | 459 |
| その他 | 767 | 605 |
| 営業外収益合計 | 1,816 | 1,573 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 4,011 | 4,149 |
| その他 | 783 | 625 |
| 営業外費用合計 | 4,795 | 4,775 |
| 経常利益 | 4,646 | 26,033 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 166 | - |
| 役員退職慰労引当金戻入額 | 98,750 | - |
| 店舗閉鎖損失引当金戻入額 | 2,136 | 3,927 |
| その他 | 2,091 | - |
| 特別利益合計 | 103,144 | 3,927 |
| 特別損失 | | |
| 前期損益修正損 | 4,004 | - |
| 店舗閉鎖損失 | 103 | - |
| 商品廃棄損 | 2,209 | - |
| 偶発損失引当金繰入額 | 1,000 | - |
| 災害による損失 | - | 6,562 |
| 特別損失合計 | 7,317 | 6,562 |
| 税引前四半期純利益 | 100,473 | 23,397 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,908 | 2,350 |
| 法人税等調整額 | - | - |
| 法人税等合計 | 2,908 | 2,350 |
| 四半期純利益 | 97,565 | 21,047 |

【追加情報】

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 当第1四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) |
| 当第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。 |

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

| | |
|-----------------------|----------------------------|
| 前事業年度 (平成23年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日) |
| 受取手形割引高 81,076千円 | |

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

| | |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 前第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) |
| 減価償却費 4,981千円 | 減価償却費 5,418千円 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注)1 | 四半期 損益計算書 計上額 (注)2 |
|-----------------------|-----------|---------|--------|-----------|-------------|-----------------------------|
| | 石油事業 | 専門店事業 | 不動産事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,199,331 | 112,073 | 43,103 | 1,354,507 | | 1,354,507 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | | | | | | |
| 計 | 1,199,331 | 112,073 | 43,103 | 1,354,507 | | 1,354,507 |
| セグメント利益 | 8,849 | 4,397 | 25,474 | 38,721 | 31,096 | 7,624 |

(注) 1 セグメント利益の調整額 31,096千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 31,096千円でありま
 す。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|-----------|---------|--------|-----------|--------------|------------------------------|
| | 石油事業 | 専門店事業 | 不動産事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,133,259 | 143,287 | 45,127 | 1,321,673 | | 1,321,673 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | | | | | | |
| 計 | 1,133,259 | 143,287 | 45,127 | 1,321,673 | | 1,321,673 |
| セグメント利益 | 36,649 | 9,541 | 25,439 | 71,630 | 42,395 | 29,234 |

(注) 1 セグメント利益の調整額 42,395千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用 42,395千円でありま
 す。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) |
|---------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|
| (1) 1株当たり四半期純利益金額 | 12円 95銭 | 2円 79銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益(千円) | 97,565 | 21,047 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(千円) | 97,565 | 21,047 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 7,536,466 | 7,534,470 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月11日

ダイヤ通商株式会社
取締役会 御中

監査法人薄衣佐吉事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田村 都彦 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 今田 亮 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているダイヤ通商株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第63期事業年度の第1四半期会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、ダイヤ通商株式会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。